

# 令和7年度 立川市立南砂小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標 ○元気な子 ○考える子 ○思いやる子 ○がんばる子		
児童に育成を目指す資質・能力		複数の教科や学年全体に共通する取組
○基礎的・基本的な知識・技能 ○既習や経験からの思考力・判断力・表現力 ○自ら主体的に学ぶ力		・具体物や実体験に根ざした授業の推進 ・一人1台タブレットPCの活用など、個別最適な学びと協働的な学びの充実
教科	教科で育成を目指す資質・能力	資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など）
国語	○既習の言語事項を定着させ、それを文章の中で適切に活用する力 ○目的や意図に応じて資料を適切に活用し、自分の考えを分かりやすく伝える力 ○読書を楽しみ、自分の視点や考えを広げていこうとする力	・ノートや日記に文章を書く時、既習の漢字の間違いや脱字を修正させるようにする。 ・辞書を使って分からない語彙を調べる習慣を付ける。 ・資料を適切に読み取り、資料を活用して自分の考えを分かりやすく書き表す活動を教科横断的に行う。 ・読書仲間や読み聞かせ活動、近隣図書館からの本の貸し出しを通して本に親しみ、読書活動を充実させる。
社会	○社会的事象を捉え、比較・分類したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりする力 ○社会に見られる課題を把握し、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力	・資料から読み取ったことを比較するために、相違点や共通点をノートに書き出したり、図に表したりする。 ・比較したり関連付けたりして考えたことを、文章に表す機会を増やす。その上で、グループや全体で話し合い、その理由や背景を考える学習を行う。 ・日本と世界の伝統・文化などに関する理解を深めるために、国旗や国歌、世界遺産などについて調べる学習を取り入れる。
算数	○文章を読み取り、正しく演算決定をする力 ○思考力、判断力、表現力の育成 ○図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考える力 ○日常場面の事象を数理的に捉え、問題を協働的に解決する力	・文章を正しく読み取り、内容を理解するために、問題場面を図や表に表す機会を増やす。 ・身に付けた知識及び技能を生かして解くような問題を扱う。 ・量感覚を身に付けさせるために、日常生活に関連付けた場面を提示し、数直線やテープ図などを用いる。 ・友達の考えから学び合ったり、学習の過程と成果を振り返り、よりよく問題解決したりする力を養う。
理科	○予想や仮説について、考えの根拠を明らかにして他者に伝える力（中学年） ○実験結果を比較しながら考察する力（高学年）	・これまでに学んだ知識から仮説を考え、観察・実験の計画を立て、意見交流をする学習場面を設ける。（中学年） ・実験結果を表やグラフなどに整理して考えたことを議論し、自分の考えに根拠をもって他者に伝える学習場面を設ける。（高学年）
生活	○実際に体験する中で、身に付けていく生活上必要な力 ○主体的に活動する中で自分の気づきを生み、それを比べたり例えたりしながら伝える力 ○気付いたことや考えたことを表現する力	・他学年、保育園や幼稚園、地域の方との実際の交流の機会を多く設定する。 ・見付ける、比べる、例える、工夫するなどの学習活動を行い、気付いたことを基に考えたり表現したりする経験を積ませる。 ・表現する際に、タブレットPCなどを利用して検索した情報を付け加えたり、分かりやすく伝えたりしていくよう声掛けをする。
音楽	○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解する力や表したい音楽を表現する力 ○思いや意図をもって音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができる力 ○様々な音楽活動に意欲的に取り組むことができる力	・歌詞を読んだり楽譜を見たりして、気付いたことを話し合う。 ・リズムや音色、速度などの音楽を形づくっている要素の言葉を使い、音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことを伝え合う言語活動の充実を図る。 ・表現することの楽しさを感じることができるよう、表現したことを認めてもらえたり、協力して活動したりする場を設定する。
図画工作	○用具や材料の基本的な扱い方や表現の方法を知り、それを活用しながら自分なりの表現をする力 ○感じたことや発想したことをどのように表現するか考えたり、友達や身の回りの作品を見てそれぞれのよさを感じたりする力	・自分の思いを表現するのに適した用具や材料を選択したり、表現したりできるように、様々な用具や材料に触れる機会を設定する。 ・ワークシートなどで自分の考えをまとめたり、鑑賞活動などを通していろいろな表現を伝え合ったりして、よさに気付けるようにする。
家庭	○日常生活をよりよくするための工夫を考える力 ○習得した知識や技能を家庭生活で生かす力	・日常生活から衣食住に関する課題を発見し、解決策を検討する。また、計画、実践、評価、改善といった学習活動を通して課題を解決できるようにする。 ・全ての児童が身近で分かりやすく、扱いやすい教材や資料を選択する。

<p>体 育</p>	<p>○運動の基礎的な知識や技能 ○自らすすんで運動に親しもうとする意欲 ○仲間と協力したり、互いの考えを認め合ったりする経験を通して、学びに向かう力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元において、基礎的な技能を身に付ける運動の時間を確保し、運動する楽しさを味わわせる活動を設定する。</li> <li>・長縄や短縄や持久走など、年間指導計画と朝の時間や休み時間などの取組と連携させ、児童が主体的に運動に取り組む活動を設定する。</li> <li>・児童が友達と関わり合って運動に取り組む場面を多く設定する。</li> <li>・ゲームにおいては、作戦について話し合う時など、友達と対話する場面を多く授業の中で設定する。</li> </ul>
<p>外国語 活動・ 外国語</p>	<p>○外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ態度 ○既習の知識を使って、自分の伝えたいことを、外国語を使って話そうとする態度 ○外国語を使って、関わろうとする力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語を学ぶ興味・関心を高めていくために、日常生活に関する身近な題材を教材化していく。</li> <li>・前時の復習や反復学習の時間を設け、学習の定着を図る。</li> <li>・自分の学習を振り返り、自分の思いや考えを伝えるためにはどんな表現が適切か考える時間を設ける。</li> <li>・コミュニケーションを行う目的や場面、状況の設定を明確にした言語活動の時間を意図的に設ける。また、ALT とのコミュニケーションの機会を多く設ける。</li> </ul>